

* 立教大学 *

『図書新聞』と人文学の現在
—公器としての書評紙を考える—

企画概要

70年以上にわたり書評や映画評、美術批評、社会批評を提供してきた『図書新聞』（1949年創刊）が、2026年3月31日に終刊を予定している。たんに「本の紹介」をするにとどまらず、言論をたたかわせるプラットフォームとしての機能も有する場が失われるという事態を前に、書評紙という場の意義や価値、書評の社会的な機能について考える機会を持ちたい。

このたびは『図書新聞』編集部の須藤巧氏をお招きし、ご自身のお仕事に関わる現状やこれまでのことなどを伺いつつ、人文学や出版文化圏の現在について話し合う。「著わす人、読む人、届ける人、広める人が相集い、互いに言いたいことを論じ」る会になればと思う。（「 」内は『図書新聞』「創刊のことば」より引用。）

ゲスト

須藤 巧 氏

『図書新聞』編集部

日程・場所

2026年
1月26日（月）
18時～ロイドホール5階
人文研究センターどなたでも参加可
能です（予約不要）

開催に際して

70年以上にわたり言論をたたかわせる場を提供してきた『図書新聞』が、2026年3月31日に終刊を予定しています。人文研では『図書新聞』編集部の須藤巧氏をお招きし、書評紙の意義や価値、書評の社会的な機能について論じ合う場を持ちます。

みなさまぜひご参加ください。

対象者：
教員 学生開催形式：
対面のみお問い合わせ：
人文研究センター
(rch@rikkyo.ac.jp)